

学外研修報告

平成 29 年度 日本結晶学会年会に参加して

共通機器部門 河田尚美

1. はじめに(目的等)

日本結晶学会には化学分野、物理・鉱物分野、生物分野などから多くの結晶学関係者が集まり最新の研究について議論を行っている。担当している単結晶 X 線構造解析に関しても多数の発表があり、今回は担当装置で測定されたデータも発表に使用されると聞いていた。結晶学や最新装置の情報を収集するため参加した。

2. 期間・場所

期間： 平成 29 年 11 月 23 日（木），11 月 24 日(金)

場所： JMS アステールプラザ（広島市）

3. 参加者等

大学や企業の結晶学関係者 約 300 名

4. 研修内容

口頭発表 47 題, ポスター発表 116 題, シンポジウム 13 題, 受賞講演 3 題より業務との関係が深いものを選択して聴講した。

5. まとめと感想

担当装置の利用者は化学分野が大多数だが、装置担当者としては物理・鉱物分野の知識が必要不可欠であると改めて感じた。物理・鉱物分野では、構造に関する議論が深く、無機結晶中の最外殻電子密度分布についてまで触れられていた。分子構造を得るための有機結晶の構造解析では最外殻電子の偏りはまず取り扱わないが、はっきり見えなくても偏りは存在しているはずなので、今後は意識して解析を行いたい。

また最新の検出器では検出感度が劇的に向上しており、従来では測定を諦めていた結晶でも検出できる可能性が高い。今後検出器の最新情報に注目したい。